

歌手の観光大使出演 **愛称、ロゴマークを公表**

日 時：2018年12月11日（火）

18時～19時（開場：17時30分）

会 場：白老コミセン（入場無料）（事前申し込み不要）

出演者：白老町観光大使 ゴスペルシンガー KiKi
歌手 ミト カツユキ



ゴスペルシンガー KiKi



歌手 ミト カツユキ

内 容：民族共生象徴空間の開設500日前を記念し、カウントダウンイベントを開催します。

◎白老町観光大使のゴスペルシンガーKiKiさんとコーラスメンバーによるゴスペル斉唱

◎白老町観光大使の歌手ミト カツユキさんによるパフォーマンス

◎民族共生象徴空間の愛称・ロゴマークの公表

また、民族共生象徴空間開設に向けたプロモーションの一環として「イランカラナテ」キャンペーンイメージソングを防災行政無線から放送開始します。

～放送開始日時 12月11日（火）12時35分から毎日放送～

問い合わせ先：アイヌ総合政策課 象徴空間開設準備グループ ☎82-7739

知っておこう アイヌ文化

エントで体調維持！

イランカラナテ。早くも師走に入り、寒さや忙しさ、暴飲暴食でついつい体調を崩しがちになるのがこの季節です。さて、今回は自然と共生してきたアイヌ民族の知恵から、風邪や二日酔いなどの薬になるとされ、利用されてきたナギナタコウジュについて学んでみましょう。ナギナタコウジュは日当たりのよい場所に生えるシソ科の1年草で、白老でも草地などに自生している姿を見ることができます。秋になるとなぎなたのような形をした紫色の花が咲き、全草からハーブのようないい香りがします。アイヌ語でナギナタコウジュの茎や葉をエント（地域によってはセタエントなど）と呼び、アイヌの人々は乾燥させて煎じたものをお茶にして飲んだり、お粥に入れたりして体調の優れない時に食べていました。さらには狩猟や漁労の際、水を入れた徳利にナギナタコウジュの葉で栓をして持って行くと何日しても水の味が変わらない、つまり防腐剤として利用されていたことが『知里真志保著作集別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』に記されています。普段気にもとめない野草もアイヌ文化に目を向けることで実は私たちの健康や生活をより豊かにするヒントがふんだんに含まれているのです。

アイヌ総合政策課アイヌ施策推進グループ学芸員 森 洋輔



乾燥させたナギナタコウジュ

問い合わせ先：しらおいイオル事務所チキサニ ☎82-6301